



# Espacenet Bibliographic data: JP 60107686 (U)

---

**No title available**

**Publication date:** 1985-07-22  
**Inventor(s):**  
**Applicant(s):**  
**Classification:**  
     - International: *F16L21/00; F16L21/02; F24F13/02*; (IPC1-7): F16L21/00; F24F13/02  
     - European:  
**Application number:** JP19830200589U 19831226  
**Priority number(s):** JP19830200589U 19831226  
**Also published as:** ● [JP 1015987 \(Y2\)](#)

**Abstract not available for JP 60107686 (U)**

Last updated: 04.04.2011    Worldwide Database    5.7.20; 92p

# 公開実用 昭和60—107686

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-107686

⑬ Int. Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)7月22日

F 16 L 21/00  
F 24 F 13/02

7244-3H  
A-6968-3L

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ダクトの接続装置

⑯ 実 願 昭58-200589

⑰ 出 願 昭58(1983)12月26日

⑱ 考 案 者 小 桜 寿 彦 富士市青島119番地の22 日本プラスト株式会社内  
⑲ 出 願 人 日本プラスト株式会社 富士市青島119番地の22  
⑳ 代 理 人 弁理士 榊 沢 襄 外2名



## 明 細 書 (3)

### 1. 考案の名称

#### ダクトの接続装置

### 2. 実用新案登録請求の範囲

(1) ダクトの接続端部にその開口端縁から内外面をはさむようにして全周に帯状板材からなるシール材を接着し、上記ダクトの接続端部にこれに対応する接続体を上記シール材を介して嵌合接続するダクトの接続装置において、

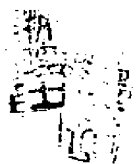
上記ダクトの接続端部に内外貫通部を間隔をおいて形成し、この各内外貫通部を介して上記ダクトの内外周部におけるシール材の内面を互いに接着したことを特徴とするダクトの接続装置。

### 3. 考案の詳細な説明

〔考案の技術分野〕

(1)

988



本考案は、たとえば、自動車の空調装置の給排  
気路などに用いるダクトの接続装置に関する。

〔考案の技術的背景〕

従来、ダクトの接続端部を他のダクトまたは送  
風機器の口部などに接続する場合、たとえば、オ  
1図ないしオ3図に示すように、角筒形または円  
筒形のダクト(1)の接続端部にその開口端縁から内  
外面をはさむようにして全周に、発泡ウレタンな  
どの柔軟性を有する帯状板材からなるシール材(2)  
を片面に設けた両面接着テープ(3)を介して巻き付  
けて接着し、このシール材(2)を装着したダクト(1)  
の接続端部内に、ダクト(1)の内径と対応する角筒  
形または円筒形の他のダクト、送風機器の口部な  
どの接続体(4)を嵌合して接続している。

〔背景技術の問題点〕



しかし、このような接続構造によると、シール材(2)の内周部と外周部の径の相違から内周部の全周長より外周部の全周長が大きくなつて、内周部と外周部とに伸縮の差が生じ、そのため外周部の接着力が弱くなつて、**図4**に示すように外周部が剥れやすく、接続が不確実になりやすい。

#### 〔 考案の目的 〕

本考案は、上述のような点を改良し、ダクトの接続端部に接着するシール材の主に外周部の剥れを防止することを目的とするものである。

#### 〔 考案の概要 〕

本考案のダクト接続装置は、ダクトの接続端部にその開口端縁から内外面をはさむようにして全周に帯状板材からなるシール材を接着し、上記ダクトの接続端部にこれに対応する接続体を上記シ

理  
力

ール材を介して嵌合接続するダクトの接続装置において、上記ダクトの接続端部に内外貫通部を間隔をおいて形成し、この各内外貫通部を介して上記ダクトの内外周部におけるシール材の内面を互いに接着したことを特徴とするものである。

〔 考 案 の 実 施 例 〕

以下、本考案の一実施例をオ 5 図およびオ 6 図を参照して説明する。

なお、前記オ 1 図ないしオ 4 図と対応する部分には同一符号を付して説明する。

角筒形または円筒形のダクト(1)の接続端部に全周にわたり複数個の円孔状の内外貫通部(5)を間隔をおいて形成する。そして、上記ダクト(1)の接続端部にその開口端縁から内外面をはさむようにして全周に、発泡ウレタンなどの柔軟性を有する帯



状板材からなるシール材(2)を片面に設けた両面接着テープ(3)を介して巻き付けて接着するとともに、上記各内外貫通部(5)を通して上記ダクト(1)の内外周部におけるシール材(2)の内面を接着テープ(3)により互いに接着する。そして、このシール材(2)を装着したダクト(1)の接続端部内に、前記のように、ダクト(1)の内径と対応する角筒形または円筒形の他のダクト、送風機器の口部などの接続体(4)を嵌合して接続する。

このようにすることにより、シール材(2)の内周部と外周部とは互いに強固に接着されてダクト(1)の内外面に密着し、また、接続体(4)を挿入するときシール材(2)の外周部の剥れ方向の力に対する抗力が大きくなり、シール材(2)の外周部が剥れるようなことはない。



なお、実施にあたつて、内外貫通部(5)は、才 7 図および才 8 図に示すように、横方向に長い長孔状に形成してもよく、さらに、才 9 図および才 10 図に示すように、ダクト(1)の開口端縁から U 字状などの切欠によつて形成してもよい。これらのようにすると、シール材(2)の接着面の幅を小さくすることができる。

また、シール材(2)は接着剤により接着してもよい。

〔 考案の効果 〕

本考案によれば、ダクトの接続端部に内外貫通部を間隔をおいて形成し、この各内外貫通部を介してシール材の内外周部の内面を互いに接着したので、シール材はダクトの外周部においても十分な接着力を有して剥れることがなく、他のダクト



などの接続体との接続を確実に行なうことができるとともに、他のダクトなどの接続体の挿入時にもシール材が剥れるようなことがないため、挿入接続を円滑に行なえ、接続の作業性を向上することができる。

#### 4 図面の簡単な説明

図 1 図は従来の装置の斜視図、図 2 図はその断面図、図 3 図はそのシール材の斜視図、図 4 図は従来の装置におけるシール材の剥れ状態を示す断面図、図 5 図は本考案の装置の一実施例を示す斜視図、図 6 図はその断面図、図 7 図は本考案の装置の他の実施例を示す斜視図、図 8 図はその断面図、図 9 図は本考案の装置のさらに他の実施例を示す斜視図、図 10 図はその断面図である。

(1)・・・ダクト、(2)・・・シール材、(4)・・・接続体、



(5) ・ ・ 内外貫通部。

昭和58年12月26日

考 案 者 小 椋 寿 彦

実用新案登録  
出 願 人 日本プラスト株式会社

代 理 人 樺 沢

執  
理  
士  
樺  
沢  
印

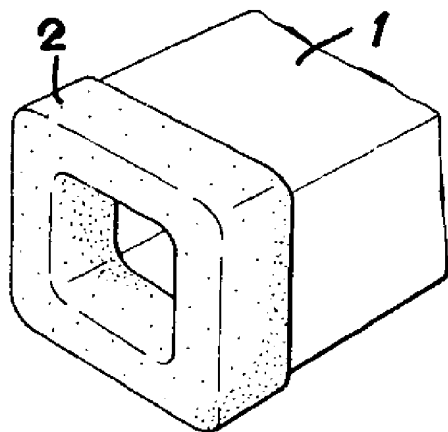
同 樺 沢

執  
理  
士  
樺  
沢  
印

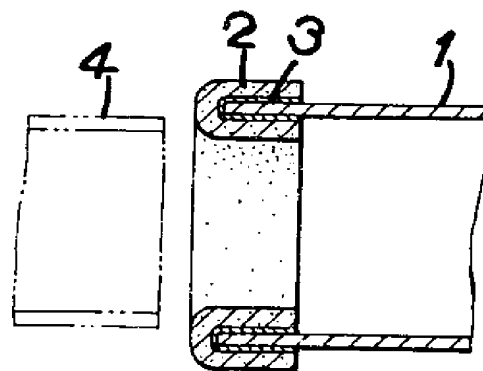
同 島 宗 正

執  
理  
士  
島  
宗  
正  
印

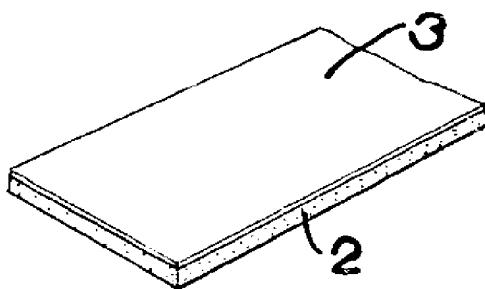
第 1 図



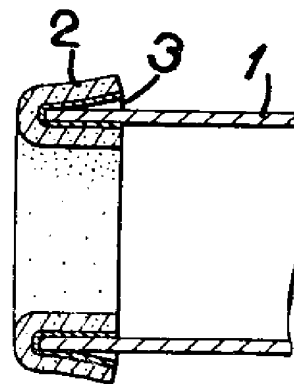
第 2 図



第 3 図



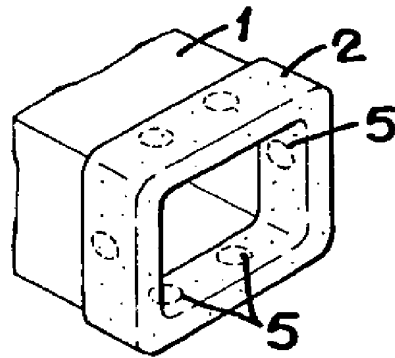
第 4 図



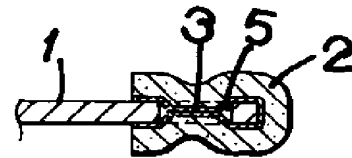
実開60-107686

特許出願人 日本プラスチック株式会社  
代理人 樺澤 義 外2名 印 澤 士

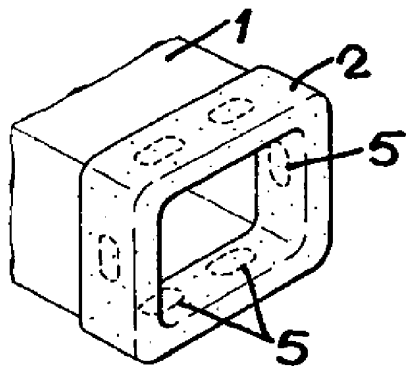
第5図



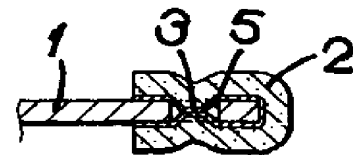
第6図



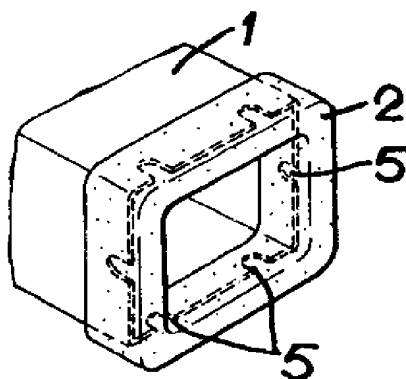
第7図



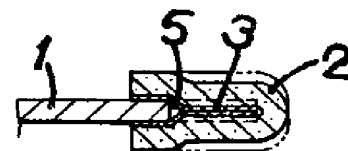
第8図



第9図



第10図



実開60-107686

実用新案登録出願人 日本プラスト株式会社 代理人 樺澤 義典 外2名 印澤士